

随時掲載

「鼻の下には、卵を割るためのとげがあるんだよ」

高知市の高知みらい科学館。赤ちゃんガメを手に乗せてはしゃぐ子どもに、高知大大学院2年の高田光紀さん(23)が語り掛ける。カメに魅せられた学生による同好会「かめイズム」の初代会長だ。

静岡県出身。幼少期から水辺の生き物が大好きで、海洋研究に力を入れ

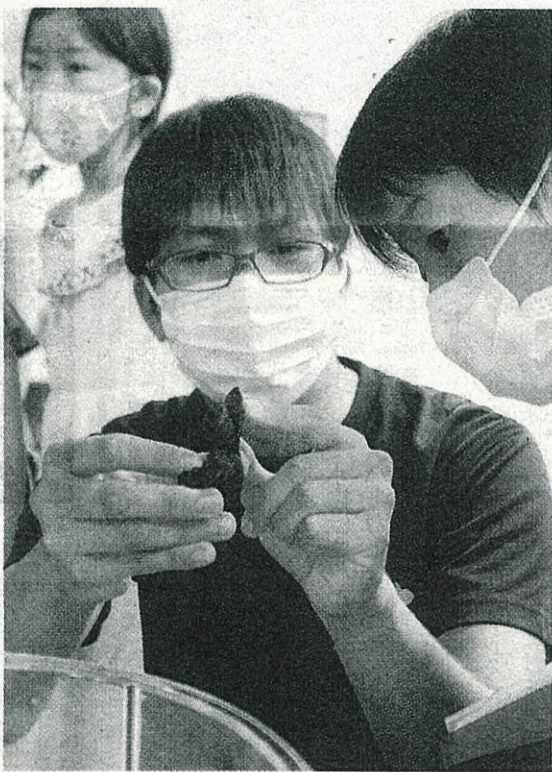
かめイズム初代会長

地元愛ある人に育って

る同大へ進んだ。大学院ではウミガメ調査の研究室に所属している。2年前に結成した「かめイズム」は、現在会員約30人。毎年5〜8月に安芸郡芸西村の海岸に通って、ウミガメの産卵を調査したり、波にさらわれそうな卵を保護したり、ふ化させたり。

秋の文化祭では、高知の海でつかまえた生き物を紹介する水族館が人気を集める。今年は新型コロナウイルス禍で中止が見込まれる中、科学館に赤ちゃんガメを持ち込み、触れて楽しめる展示(30日まで)を企画した。ウミガメが産卵する砂浜は全国で減っている。

「こんなときだから、身近で豊かな自然に気付いてほしい。環境を守れるのは結局、地域の人。子どもたちには地元愛のある人に育ってほしいから」
「私も赤ちゃんに触りたい」。目を輝かせる子どもにはほほえんだ。
(宮崎順一)



アカウミガメの特徴を子どもに教える高田光紀さん(高知市追手筋2丁目の高知みらい科学館) 高知新聞社提供